

日本共産党 和歌山市公議員

ひめだ高宏ニュース

No.875

11.8.17

日本共産党 環境衛生研究センター見学 議員団

8月10日(水)日本共産党県議団と和歌山・海南・海草の議員団が砂山にある県環境衛生研究センターを訪問。同センター実施の放射能による大気・水質の調査について見学させてもらいました。

放射能測定値は毎日HP公開

同センターは食中毒や残留農薬などの検査部門と公害や放射能などの検査部門に分かれており、放射能については文科省の委託を受けて61(=S36)年から調査を続けていること。ただ福島原発の事故後、3月18日からは屋上に設置した機器と上水道は毎日、6月13日からは地面から1mの高さの放射線量の測定をしています。その結果は毎日文科省のホームページに更新されていること。屋上にある機器に付着し

たものに水をかけて、その水を1台2千万円のゲルマニウム半導体核種分析装置に入れて6時間経ったら結果が出るそうです。地面から1mの高さの放射線量の測定は、1台80万円のサイベイメーターを使い手動で計ります。屋上のモニターングシステムは原爆を想定して地上15mに設置されて



1台2千万円の検出器の説明を係員から受ける和歌山市議員、松坂、中村、森、南



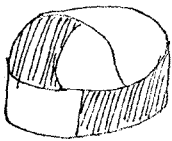
<658>

こんな紙を

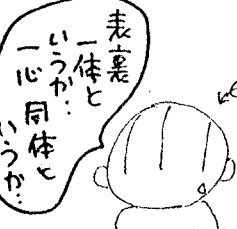


AとD、BとCをくっつけるとできる

メビウスの輪



友達いかにわかんない男



表裏一体と
いつか
一心同体と
いつか!

民主代表選

「大連立」案を相次ぐ

原爆に
無反省の
メビウスに
おこらぬナ

おり、地上1mの半分の数値だとのことでした。

こんにちは

日本共産党の

ふじい健太郎

です。(その300)

色とりどりの高山植物や氷河期から生き残る雷鳥の親子づれにも会え、温泉も楽しめます。

お盆も過ぎ暦上は立秋を迎えています。残暑が長引きそうです。お体には御用心を。私は、7月に入り、2週間ほど「風邪」で苦しみました。7月後半には体調も回復しました。そこで、8月に入り、休みをもらって「立山」に山の仲間と登ってきました。標高3000m級の山塊がならぶ北アルプスの西端に位置しています。ケーブルバスを利用し、2400mの「室堂平」まで行き、そこからの登山となる登りやすい山です。数多くの雪渓が残る。

ご希望の方は、休暇が取水日時が合えば、「ご案内します」のでご連絡を。また、8月は「平和」について考えさせられる月でもあります。8月6日広島・9日長崎に人類史上初めての原爆投下がされ、8月15日は終戦を迎えました。今年66周年となります。奥村県議松坂市議と終戦記念日の街頭宣伝に出ました。思いをはせた月でもありました。

原爆に無反省のメビウスに



ふじい健太郎 前県議員

検査体制の充実必要だが

予算も人も不足

見学のあとに質疑応答では、測定ポイントが少なすぎるのではないかと、小学校や幼稚園、保育所での測定、お茶や野菜などへの影響と蓄積の関係、肉や魚への影響、牛フンを肥料とする場合への影響などについての質問がありました。私、ひめだは簡易測定器の精度や海やプールへの影響などについて聞きました。爆発が



何人も生徒が何人も太鼓をたたいていました。

ない限り現時点では和歌山 岩手・陸前高田市 震災被災者 救援防報告

7月15日、矢作への訪問の中で「きまうは近くのこ

に、ほぼ影響がないとの答。放射能の基本的な勉強をしてほしいとのことでした。

ミセンで夏祭りがある」と聞いたあと、太鼓の音が聞こえてきたので、その音に誘われて行くと、そこは中学校でした。先生に話を聞くと津波で壊された気仙中学校の生徒が寮校になっていた矢作中学校に引っ越してきたとのこと。その太鼓

こんにちは 日本共産党



「国民の友」8月号の知事メッセージは「戦争責任」がテーマです。お読みになりましたか？ 仁坂知事は「その当時のすべての国民にその責任が

あった」と述べ、戦意を高める新聞がよく売れたり、軍国教育が鼓吹（こすい）されたことなどを指摘しています。また、「同じ国民が敗戦のあとはころりと変わった」と、熱に浮かれやすいのが日本人だといった趣旨を語っています。

「一億総懺悔（ざんげ）」は敗戦後の政府が自らの責任を隠蔽しようとした言葉ですが、仁坂知事は戦後66年たった現在もそう考えているようです。知事は同じ文で「流水に逆らって正しいと思うことをいうのは大変」と述べていますが、戦前、そのことを実行した政党や人々がいたことをぜひ知ってもらいたい。

あきれた「盗人猛々しい話」

電力会社など発行の雑誌

東電免責の記事

は、旧盆の行事の気仙七夕ケンカ太鼓というもので、4つの集落にある山車をぶつけあうお祭りとかで、生徒のみん中は地元の保存会の指導で幼稚園の時から太鼓や笛をけいこしているところ、どうりで上手なはずでした。

和歌山に帰ってから新聞記事で知ったのですが、津波によって4つの山車のうち、使えるのは1台に落ちたとか。生徒達が元気に、4台の山車が来年には、復活するように祈りたいと思います。

に起きた」と主張。「電力（東電）にその賠償の責を負わすとは責任逃れもほどがある。大衆の怒りに便乗して、何でも彼（か）んでも責任を押しつけてくるとは、火事場泥棒のそしりを免れない」と断じています。原発事故の賠償責任を国に全面転嫁して東電の責任を棚上げにし、東電が被害者であるかのようにすり替える最悪の免罪論です。

稲わら汚染・賠償は「火事場泥棒」

東京電力など電力9社と電源開発が発足させた「公益産業研究調査会」（略称「公研」）発行の月刊誌「公研」8月号に、東電福島原発事故によるセシウム汚染の稲わらで飼育した肉牛の出荷停止について、賠償を東電に負わせるのは「火事場泥棒」と論じる記事が掲載されていることがわかりました。問題の記事は巻末の「事務局日誌」。「天日に晒（さら）された稲わらへの放射性物質の影響などは、当然注意していかるべき」で、汚染は「その注意の徹底を行政が怠っていたためは空席」。日刊5報、8/16付け

ズバリ問題を指摘するしんぶん赤旗日刊紙の二購読を。